

第68回 埼玉県美術展覧会審査評

【第4部 工芸】

審査主任 西^{にし} 由三^{ゆうぞう}

工芸部門の出品作品は全 343 点、運営委員・審査員・招待・委嘱を除く審査対象作品、一般 185 点、会員 113 点、計 298 点であり、昨年と比べて微減ながら、ほぼ変わらず推移しております。中でも、一般は作品数が減少したものの、逆に出品者数は微増しており、複数点制作することが難しい事を鑑^{かんが}みれば寧ろ喜ばしい事で、県民に広く工芸の楽しさ、手を動かし、物を造る喜びが浸透している証しと見る事も出来るでしょう。

しかしながら昨年に引き続き、工芸部門では、大作・力作といった作品が減って来た様な気がします。それに引き替え小ぢんまりまとまった物や組皿等が増えた様です。それが悪い事ではありませんが、年に一度の展覧会、是非力一杯暴れて頂きたいと思えます。そこに技術や観察力、感性がついてくれば申し分ありません。次回展での飛躍を期待いたします。

・埼玉県知事賞

「^{けやきはじょうもくふきうるしこものいれ}櫛波状杳拭き漆小物入れ」 ^{おがわ たつお}小川 辰夫

^{はじょうもく}櫛材の波状杳と呼ばれる模様を用いて、天板と前板の引き出し部分を構成し、深みと透明感のある拭き漆で仕上げる事により、杳^{もくめ}目の美しさを強調しています。

天板の下部分を斜めに切り込みを入れる事により、水平方向に広がりを感じさせており、垂直方向は4本の脚を丸くする事で、形状のバランスがよくなっています。単調さを避けるため、取手部分は黒柿をアクセントとして用いる事により、作品全体に心地良さを感じさせる力作に仕上がっています。

・埼玉県議会議長賞

「^{そう}爽」 ^{はせがわ}長谷川 ^{ちか}千嘉

透かしの入った夏物生地に、蜘蛛絞りと、板締め絞りを併用した浴衣です。

絞りのできる藍の濃淡が更に清涼感を増して年齢を問わずお召しになれると思います。

非常に難しい作業ですが丁寧で心のこもった制作態度が感じられる秀作です。

これからも期待しております。

・埼玉県教育委員会教育長賞

「カバ先生」 ^{くまい}隈井 ^{じゅんこ}純子

金属の板を金鋸等で叩き変形させる事で造形を行う鍛金（たんきん）と言う技法で造られたカバの置物です。地金は銅板を用い、幾度も焼き鈍し^{なま}を繰り返しながら形造っていく、変形絞りの秀作です。

ユーモラスなカバの表情を丹念に打ち出し、元々が一枚の板であった事を思わせない技量を持っています。

しっかりとした造形力で表現したリアリティさと、自身のイメージで擬人化されたカバの表情が見る者の目を引き付ける要因と言えるでしょう。黄銅（真鍮）で造られた鼻眼鏡が題名を端的に表し、亦良いアクセントとなっています。背の高い木製（外国産材でしょうか）の台に取り付けているところに作者のデザインセンスを感じさせます。

次回、更なる力作を期待致します。

・埼玉県美術家協会賞

「^{かんしつ}乾漆『時の流れ』」 ^{おおうえ}大上 ^{きょうこ}京子

この作品は麻布を何枚も漆で塗り固める^{かんしつ}乾漆という技法で作られています。

外側は^{きんでい}金泥(金属粉を漆で溶いて塗った物)の上に^{ためすきうるし}溜透漆を程好く塗り、夕空を現し、黒漆等で山並みを表現しています。

内側には^{らんかく}卵殻や^{らでん}螺鈿等で、底面には箔の微塵を蒔いて奥行きのある夜景を表現しています。

希望をいえば蓋をつけた器にして、開けた時のドラマチックな演出が出来たらもう一段階上の作品になったと思います。

・埼玉県美術家協会賞

「^{さいでいはじょうもんき}彩泥波状文器」^{たかはし}高橋^{しろう}司郎

黒い端正な、高さ、口径とのバランスの良い形に、ロクロ成形された美しい作品です。ロクロ成形に日頃の修練が感じられます。

その表面に、彩泥という手法によりあらわされた、白い線條の波文が、器面のほぼ全体をバランス良く精密に分割し、心地良い仕上がりになっています。

白い土でロクロ成形された器体を素焼にした後に、巾0.5mm～1mmのテープを波状に貼りつけます。大変神経を使う仕事です。テープを接着剤で貼りますが、素焼は接着剤が付きにくいので接着剤の選定には苦労されたようです。また塗り方にも独特の技術が必要で、この仕事の最も重要なポイントです。波文のテープを貼って黒い化粧泥を吹付け、その後テープをはがし、窯に入れ、弱い環元で焼成しています。

あらためまして、黒い化粧土と、白い細い波文のコントラストと、形の美しさの素晴らしい作品です。

・埼玉県美術家協会賞

「^{ねぎぼうず}ねぎぼうず」^{やちだ}谷地田^{みつこ}美津子

ねぎぼうずの過去、現在、未来を思わせるような藍色を基調にしたタピストリーです。実に見事な現在のねぎぼうずは生き生きと自分を主張して金箔をまとって自信に満ちています。未来の方は発展途上を表すごとく背

景を銀箔にして藍の濃淡を適度に入れて作者の長年の制作における磨きあげられた力量を感じました。素晴らしい秀作です。

・読売新聞社賞

「けいかん か き鶏冠花器」 さかえ かずお榮 一男

なまめ こうえんぶ艶かしい口縁部とは対称的にエッジの流れるラインと底を絞った形はとても美しいです。

実はこのような造形的な形のベースはロクロ成形によるものであります。

内側にははくしょく ゆ白色の釉が施されている反面、外側は焼き締めることでより造形が引き立っています。

作者の造形力を感じさせる秀作です。

・埼玉県美術家協会会長賞

「はなしょうぶ花菖蒲」 あらふね きぬこ荒船 絹子

木彫布木目込みという技法による人形です。

桐の木を頭、手、足、胴と別々に彫り、胡粉を塗ったりみがいたりを繰り返して、形をととのえます。顔と髪の毛は薄墨で一本ずつ描き重ねて目的の濃さにします。胴体は布を木目込んで、別々に仕上げた各部を組み合わせて仕上げます。

若い女性が五月晴れの日パラソルを手に出掛けようとする瞬間をとらえたもので、爽やかな風が吹き抜けるようなすがすがしさが感じられます。

・高田誠記念賞

「ふうかんそうしょう風環層晶」 もりた たかまさ森田 高正

一見、力強いオブジェ（立体造形物）に思われますが蓋があることで、れっきとした器になります。作者は造形物と器の関係を明確にしながらも新しい観点で制作されています。

作品を印象付ける黒色の土肌は、赤土を炭化焼成^{たんかしょうせい}することにより、土に含まれる鉄成分^{てつせいぶん}と炭素が反応し合い黒い深みのある質感を作り出しています。また表面の化粧土のグラデーションによる波文様^{なみもんよう}は形と強調し合いより強い造形を生み出しております。さらなる展開を期待できる秀作です。